



山が文明を受け止めたとき

北アルプス 発見ガイド
Northern Alps discovery guide

北アルプス 発見ガイド

Northern Alps discovery guide

～山が文明を受け止めたとき～

はじめに

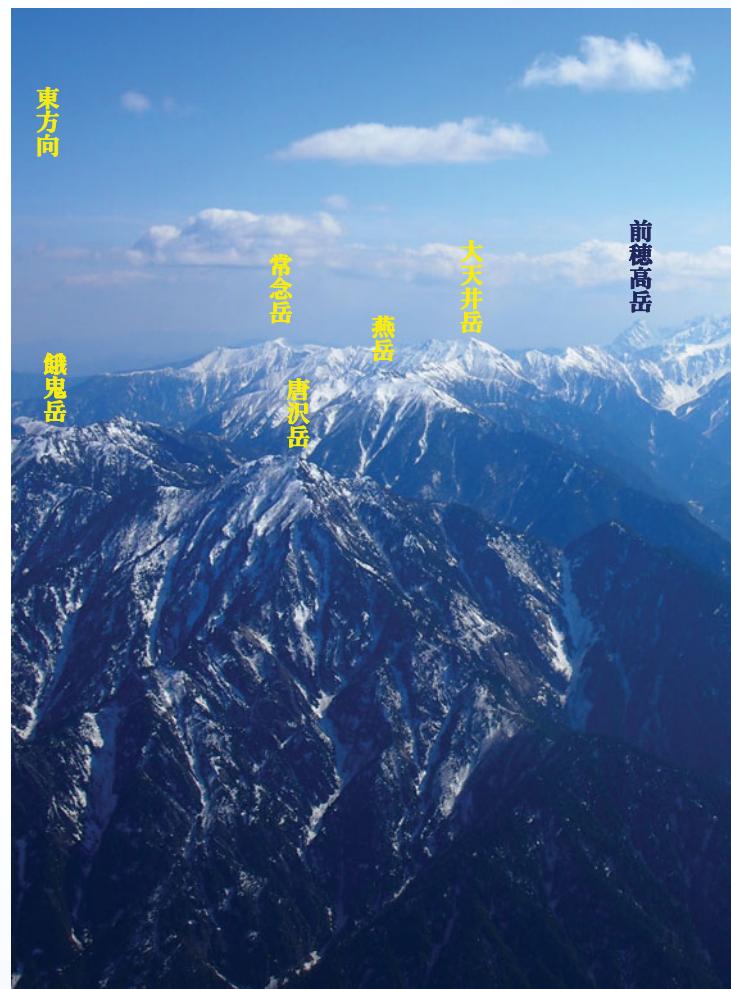
ユーラシア大陸の東縁の一部だった日本が、日本海の拡大に伴って現在の位置に誕生したのは今から約1500万年前。全人間共通の祖先と呼ばれる生命が地球上に誕生してから約10万年、マンモスやナウマンゾウなどの大型動物を追いかけて大陸から日本列島に人類が渡ってきてから約1~2万年。

この頃から現在まで、人類は常に自然の営みと相対峙し、自然からの恵みを活かし、暮らしのスタイルを変えてきました。これは、自然が人間の文明を受け止めてくれることで私たちのくらしが成り立ってきた結果ともいえます。北アルプス一帯の山々も、温泉、電源開発、登山などさまざまな人間の文明を受け止めてきました。

こうした山々の成り立ちや文明を受け止めるまでの経過をよく理解し、人と自然の関係を的確にとらえていくことは、今も昔も自然の恵みの下で人が生活を営んでいくうえで欠かせない視点のひとつです。

そこで、本書では、北アルプスの山々やその周辺が文明を受け止めるまでの過程やその環境のもつ特徴を北アルプス発見ガイドとしてとりまとめました。

第1部では、北アルプスとその周辺の成り立ちや地形・地質、気象の特徴を紹介しています。第2部では、北アルプスの影響で大きく変化する自然条件と人間の営みとの空間の中で育まれる生き物の特徴を、第3部では、登山や電源開発などこのような環境のなかでの人の営みをそれぞれご紹介しています。



表紙写真 文明を受け止めた山々
「鷲ヶ岳から撮影した北アルプスの峰々と大町市街地・大町ダム」2014年12月10日 6:45撮影



写真 七倉ダム上空から見る高瀬川上流域

(2014年4月26日撮影)

燕岳・大天井岳から槍ヶ岳に通じる登山コースは表銀座、双六岳方面から槍ヶ岳は裏銀座と呼ばれています。2つの登山コースの稜線部分の雪の量を比較してみると4月の段階で雪の残っている量は、より西側の裏銀座エリアで多く、東へ行くほど少なくなっています。

裏銀座は、冬季には北西からの季節風を強く受け、より雪が降りやすい地形条件となっており、西側斜面の雪は、吹き飛ばされて東側の斜面に吹き溜まって雪庇となり雪解けは7月中下旬頃になります。

目次

第1部 大地と大気・水の営みと山

1. 地形・地質

1 - 1	北アルプスとその周辺の成り立ち	1
1 - 2	北アルプスとその周辺の地質と地形	3
	北アルプス 地質・地形の特徴1 ~4	5

2. 気象

2 - 1	北アルプスとその周辺の降水	13
2 - 2	北アルプスと雪	15

第2部 生き物の営みと山

3. 植物

3 - 1	北アルプスの山々と高瀬渓谷の植生	17
	北アルプス縦走・稜線の植生	19
3 - 2	大町ダム一帯の植生	21

4. 動物

4 - 1	哺乳類 ~大型哺乳類のぐらし~	23
4 - 2	鳥類 ~大町ダムに来る渡り鳥~	25
4 - 3	魚類 ~龍神湖一帯の魚たち~	27
4 - 4	昆虫類 ~ダム周辺の環境と昆虫相~	31

第3部 人の営みと山

5. 人・山・水の関わり

5 - 1	葛温泉と湯道の石仏	33
5 - 2	登山~北アルプス登山の玄関口~	35
5 - 3	電源開発	37
5 - 4	44 災と大町ダム	39

引用・参考文献

写真リスト

あとがき